

ブラインドゴルフ

競技規定

《 2016 年 4 月度版 》

特定非営利活動法人
日本ブラインドゴルフ振興協会

目 次	頁
はじめに 1
1、 ゴルフ規則 2
2、 ブラインドゴルファーの定義 3
3、 ブラインドゴルフ固有のルール解説 4
4、 競技の形態とリーグ分けについて 8
☆ ステーブルフォード競技についての解説 9
5、 ハンディキャップについて 10
6、 競技への参加資格 13
7、 競技運営上の主なルール等 14
【ハンディキャップと入賞資格】 14
【ガイドについて】 14
【マーカーとスコアラー】 14
【盲導犬】 15
【道具やクラブに関して】 15
【プレーに関して】 16
【アテスト、順位の決定】 17
8、 JBGAポイントランク制度 18
9、 ガイドの交通費援助 20
10、 エチケット、マナー その他 21

日本ブラインドゴルフ振興協会 競技規定

はじめに

日本ブラインドゴルフ振興協会（Japanese Blind Golf Association 以下、JBGA）は、世界ブラインドゴルフ協会（International Blind Golf Association 以下、IBGA）の正式メンバーであり、日本における視覚障がい者ゴルフの草分けである。

JBGA はブラインドゴルフを通じて、

- ① 視覚障がい者がハイクオリティ・オブ・ライフ（質の高い生活）を享受しつつ、明るく発展的な生き方を可能にする、数多くのチャンスを提供する。
(ブラインドゴルファーも、最大限、自分ですべてのアクションをするよう意義づけられている)
- ② 晴眼者（健常者）がボランティア活動を通じ、奉仕者自身の精神的、かつ肉体的な向上を目指す機会を提供する。また、ブラインドゴルフという具体的なスポーツを共有体験することにより、障がい者の自己実現の手助けをし、真実の福祉や公共性・教育性・文化性・国際性などをふまえた、新しい時代の福祉の理想を実現する。

これらのこととを標榜し、ハンディキャップを背負った人々の生活体験領域を広げると共に、こうした社会的意義を啓蒙しようとするボランティア団体が活動を広げることが、我が国の福祉文化の向上につながるものであると考える。

JBGA は、この理念のもと、以下に記載する競技規定に基づき競技会を開催する。

1 ゴルフ規則

JBGA の主催または公認の競技は、IBGA の規約に準拠して行う。

IBGAにおいては、R&A ルールズリミテッドと、全米ゴルフ協会 (USGA) が制定する「THE RULES OF GOLF (ザ・ルールズ・オブ・ゴルフ)」と「A MODIFICATION OF THE RULES OF GOLF FOR GOLFERS WITH DISABILITIES (ア・モディフィケーション・オブ・ザ・ルールズ・オブ・ゴルフ・フォー・ゴルファーズ・ウィズ・ディサビリティーズ)」を適用している。

JBGAにおいては、日本ゴルフ協会が発行する「ゴルフ規則」の最新版を採用する（当規定では詳細は割愛する）。

この内、いくつかのルールについては、R&AとUSGAにより承認された「障害者ゴルファーのための修正ゴルフ規則」を適用して、これを修正する。
(詳しくは、4 ページの、「3 ブラインドゴルフ固有のルール解説」を参照のこと)

また、競技毎に制定される、ローカルルールを適用する。

注) R&A ルールズリミテッドとは、世界的に有効となるゴルフ規則の制定・変更・解釈・適用に関する権限を有する機関であり、「ホーム オブ ゴルフ」といわれるスコットランドのセントアンドリュースに設置されている。
日本ゴルフ協会が発行する「ゴルフ規則」および「障害者ゴルファーのための修正ゴルフ規則」は R&A ルールズリミテッドと USGA に承認されたものである。

2 ブラインドゴルファーの定義

IBGA では、視覚障害の視力のカテゴリーを下記のとおり区分しており、JBGA もそれに準じている。この3つの区分のいずれかに属する競技者をブラインドゴルファーと定義する。

- B1 【下限】 全く明光を弁じ得ない
【上限】 光覚弁（明暗弁）（どのような距離においても手の形を弁別し得ない）
- B2 【下限】 手動弁
【上限】 視力0.03以下（スネレン指標2/60以下）
- B3 【上限】 0.1以下（スネレン指標6/60以下）

※検査は視力のみ測定し、視野障害は考慮しない。

※検査は、必要に応じて矯正レンズも使用しなければならない。また検査は専門家（日本の場合は眼科医）により実施されなくてはならない。

※片眼それぞれの検査と、両眼一緒の検査をする。

※分類は最もよい測定結果（片眼の視力または両眼の視力）により判定される。
(両眼の視力の和ではない)

例) 左眼が0.016、右目が0.05で両眼による測定がどちらかの視力を超過しない場合、右眼によって分類され、この人物はB3と判定される。

(補足) IBGA規定から外れる視力の場合でも、国内競技に限りB3扱いで競技に参加できる。ただし、原則として以下の要件を満たし、理事会の承認を得ること。

- ・視覚障害について障害者手帳を交付されていること
- ・視野狭窄などで行動が著しく制限されていること
- ・ガイドの介助無しでの単独のゴルフプレーが困難であること

(視力の証明書について)

「視力診断書」の提出は、JBGAへ入会する際の必要条件ではありませんが、IBGA主催大会や海外大会など、その大会が要求する場合にこれを提出することが定められています。

「障害者手帳の写し」のみ入会時にご提出頂きます。

3 ブラインドゴルフ固有のルール解説

日本ゴルフ協会が発行する「ゴルフ規則」(最新版)のルールの内、以下については、「障害者のためのゴルフ規則の修正」を適用する。

【「介添え者（ガイド）」の定義】（「障害者のためのゴルフ規則の修正」より抜粋）
障害者に介添えしている人についての規則上の扱いとその任務ははっきりと定めておくべきである。

この点についてのはっきりとした規定がないと、例えば、視覚障害者が打った球が、自分の介添え者（ガイド）や他のプレーヤーの介添え者（ガイド）に当たったような場合、そのゴルファーはどのように処置しなければならないのかを決めかねることになる。したがって、つぎのような定義を設けておく。

介添え者（ガイド）とは、視覚障害者が球にアドレスするときに手助けをして、ストロークを行なう前にそのゴルファーを正しくセットする人をいう。

介添え者（ガイド）のゴルフ規則上の扱いはキャディと同じとする。

注：プレーヤーは介添え者（ガイド）にアドバイスを求めることも、逆に介添え者（ガイド）からアドバイスを受けることもできる。

【「ゴルフ規則 6-4、キャディ」についての、ルールの修正】

参考：ゴルフ規則 6-4、キャディ

プレーヤーは、キャディの助けを受けることができるが、どの時点をとってもキャディは1人だけに限られる。

上記ルールを以下のように修正する。

介添え者（ガイド）がキャディの役目をすることを禁止するような規定はゴルフ規則にはないが、いくつもの理由から、現実の問題としては、介添え者（ガイド）がキャディの職務を行うことは無理と考えられる。

したがって、視覚障害者は介添え者（ガイド）とキャディの二人を使って良いことにする。

介添え者（ガイド）とキャディの二人が付く際は、複数のキャディを持ってはいけないという原則から言えば、介添え者（ガイド）はプレーヤーのクラブを持ち運んだり、クラブに触れたりなどしてはならないことになるが、

（イ）プレーヤーがスタンスをとるときや、ストロークを行う前に正しくセットしようとするときに、介添え者（ガイド）がその手助けをする場合

（ロ）規則6-4/規則4. 5から見ても許されるような、一時的な手助けを介添え者（ガイド）が行う場合など、介添え者（ガイド）がクラブに触れる状況が多々あるため、違反とはされない。

【「ゴルフ規則8-1、アドバイス」についての、ルールの修正】

参考：ゴルフ規則8-1、アドバイス

正規のラウンド中、プレーヤーは、次のことをしてはならない。

- (a) 自分のパートナーを除き、そのコース上でその競技に参加している人にアドバイスを与えること。
- (b) 自分のキャディ、パートナー、そのキャディ以外の人にアドバイスを求めること。

介添え者（ガイド）の定義が設けられたことに伴い、上記の規則8-1も次のように修正する。

- (a) 正規のラウンド中、プレーヤーは、自分のパートナー以外は、誰であろうと競技に参加している者にアドバイスを与えてはならない。
- (b) プレーヤーが正規のラウンド中にアドバイスを求めることができるのは、自分のキャディ、パートナー、そのキャディ、そして、介添え者（ガイド）だけである。

〈解説〉

「パートナー」については、「ゴルフ規則 第2章 用語の定義 42、パートナー」において、「同じサイドの味方のプレーヤー」と記載があります。つまり、フォアサム・マッチプレー（2対2でのマッチプレー）における自分の味方のプレーヤーのことです。

競技会においては、プレーヤーは、キャディとガイドの両方から、アドバイスを受けることが出来ます（スコアラーからは技術的なアドバイスを受けたはいけません）。

また、ガイドは、例えば、ショットの方向を示す目印としてクラブを置く、パッティングの目標を示す、あるいは目標に立つ、などの援助をすることができますが、ストローク前に、これらの援助をやめなければなりません。

【「ゴルフ規則13-4b、ハザード内でクラブを地面に着ける；禁止行為」についての、ルールの修正】

参考：ゴルフ規則 13-4b、ハザード内でクラブを地面に着ける；禁止行為

（球をストロークする前に、次のことをしてはならない）

そのハザード内の地面やそのウォーターハザード内の水に自分の手やクラブで触れること。

※規則13-4に例外の4として、次のような規定を設けることができる、とされていますので上記ルールを以下のように修正します。

例外：4、ハザードの状態のテストや球のライの改善となるようなことさえなければ、視覚障害者がストロークをする前にハザード内の地面にクラブを着けても、罰はない。

〈解説〉

ハザード内（主としてバンカー）にて、ショットの前にクラブが地面に触れても無罰とします。

ただし、これらは偶然に触れた場合に限られますので、故意に地面にクラブを押しつけた場合はライの改善と見なされペナルティの対象となります。素振りで触れた場合もペナルティの対象です。

また、この措置は「地面」に限定されていますので、ウォーターハザード内の水には適用されませんが、ウォーターハザード内でも水が枯れて地面が露出し、そこにボールが止まった場合は、ハザード内（主としてバンカー）同様に、ショットの前にクラブが地面に触れても無罰とします。

【「ゴルフ規則14-2b、球の後方でのキャディやパートナーの位置」についての、ルールの修正】

参考：ゴルフ規則 14-2b、球の後方でのキャディやパートナーの位置

プレーヤーは、自分のキャディ、パートナー、または、パートナーのキャディをプレーの線やパットの線の球の後方延長線上、またはその近くに位置させた状態でストロークを行ってはならない。

上記ルールを以下のように修正する。

視覚障害者が正しくセットするためには、視覚障害者とその介添え者(ガイド)に規則14-2b を適用することは難しいし、また無理なようでもある。

したがって、視覚障害者がストロークをする際に、その介添え者(ガイド)がプレーのパットの線またはプレーの線の球の後方延長線上、またはその近くにいても、プレーヤーがストロークしている間、そのプレーヤーの手助けとなるようなことを他にしていなければ、プレーヤーは罰を受けない。

〈解説〉

全てのストロークにおいて、飛球線の後方線上にガイドが立っていてもペナルティはありません。

4 競技の形態とリーグ分けについて

- ・ IBGA 公認競技の競技形態および各国の出場枠は、IBGA と開催国の協議により決定される。
- ・ JBGA 公認競技として、全国大会を年間数回開催する。
- ・ JBGA 公認競技は、下記の通り2つのリーグに分けて同時開催し、それぞれ独立して入賞者を決定する。
- ・ リーグの見直しは、大会の都度これをおこなう。
- ・ 「レギュラー」・「チャレンジ」のリーグ分けは、男女の性別にかかわらず、大会時における各人の実ハンディキャップが、B1=54.4、B2=45.4、B3=36.4 の各数値以下であればレギュラーリーグ、それを超えればチャレンジリーグとなる。

グループ名	ハンディキャップ条件	競技形式
レギュラー	大会時における実ハンディキャップが、B1=54.4、B2=45.4、B3=36.4 の各数値以下の者	ストローク競技 (打数上限なし)
チャレンジ	大会時における実ハンディキャップが、B1=54.4、B2=45.4、B3=36.4 の各数値を超える者	ステーブルフォード競技 (打数上限でピックアップ)

※ レギュラーリーグは、打数上限ピックアップ無しのストローク・プレーとする、但し、選手はラウンドの途中で「棄権宣言」をすることができる。

ラウンドの途中で「棄権宣言」をした選手は、球をピックアップして、そのホールでのプレーを中断することができる。その選手はその大会での入賞資格は失うが、競技の進行を妨げない限り、次ホールからのプレーを続行することができ、ハンディキャップ計算はステーブルフォード方式による。

☆ステーブルフォード競技についての解説

各選手のハンディキャップにもとづき、各ホール、各選手ごとに決められているパースコア（以下、「ネットパー」）との比較で、下記の点数をつけ、その合計点数で順位を決定する（点数が多い方が上位）。

遅延プレーとならないよう、ネットダブルボギー（当該競技者のネットパーに2打加えた打数）でカップインしなかった場合は、ボールをピックアップしてそのホールのプレーを終了とする。

●プレーしたホールで

ネットパーより2打以上多い	0点
ネットパーより1打多い	1点
ネットパーと同じ	2点
ネットパーより1打少ない	3点
ネットパーより2打少ない	4点
ネットパーより3打少ない	5点
ネットパーより4打少ない	6点

ネットパーは競技者により異なる。具体的な決め方は、そのコースのホールハンディキャップの順番に、競技者のハンディキャップを割り振る。すなわち、各ホールのパーに1ずつ加算していく、18ホール全てに割り振ってさらに余りがある場合は、残りをまたホールハンディキャップの順番に割り振り、以降、無くなるまで繰り返す。

〈例1：ハンディキャップ15の競技者の場合〉

ホールハンディキャップ1から15のホールについて、各ホールの本来のパーに1を加算したものがネットパーとなる。ホールハンディキャップ16から18のホールについては、本来のパーがそのままネットパーとなる。

〈例2：ハンディキャップ40の競技者の場合〉

18ホールに2ずつハンディキャップを割り振ると、 $18 \times 2 = 36$ となり、40から引くと4余るので、ホールハンディキャップ1から4のホールにさらに1を加算する。従って、ホールハンディキャップ1から4のホールについては、本来のパーに3を加算したものがネットパーとなり、ホールハンディキャップ5から18のホールについては、本来のパーに2を加算したものがネットパーとなる。

5 ハンディキャップについて

JBGA のハンディキャップの計算方法については IBGA の規定に準拠し、下記のとおりである。

- (1) 査定内容となるスコアは、日本ゴルフ協会（以下 JGA という）公認のコースレーティングのあるコースでのプレーを原則とし、「ゴルフ規則」に基づいてプレーした 18 ホールのスコアとする。
- (2) カテゴリー別のハンディキャップ上限は下記のとおりとする。

	B1	B2	B3
男女共	54	45	36

※B1, B2, B3 のカテゴリー分けや「視力診断書」・「障害者手帳の写し」の提出については、3 ページ参照。

- (3) 査定に必要なスコアカードの枚数

- a. JBGA 主催、もしくはハンディキャップ委員会が認めた競技会及びラウンド練習会で、尚且つ、2 年以内に適正にプレーされた直近のスコアカードを用いる。
- b. 2 年以内に提出されたカードが 20 枚を越えた場合は、直近のスコアカード 20 枚を査定対象とする。
- c. 2 年以内に提出されたスコアカードが 1 枚もない場合は、暫定ハンディキャップとし、JBGA 競技会での入賞資格は認めない。
また、4 枚に満たない場合は、IBGA のハンディキャップは交付されず、IBGA ハンディキャップの取得を条件とする国際競技には参加できない。
さらに、7 枚に満たない場合は、IBGA 主催の世界大会に出場できない。

(4) 査定ラウンド

ハンディキャップ計算の対象として有効なスコアカードは以下の方法によって取得することができる。

1、IBGA または JBGA 主催の大会に参加する。

2、JBGA 公認のラウンド練習会で取得する。

*現在、東京、千葉、神奈川、東北、名古屋で実施されており、どちらにも参加できます。

※ 昨年まで認められていた「特別査定ラウンド」については、IBGA のルール変更により適用がなくなりました。

上記2については、事前に事務局へ申し出て頂く必要があり、必ず JBGA 事務局が認めるスコアラーがいなければならぬ。また、原則として途中棄権はできない。なお、ハンディキャップ取得のラウンド中は、スコアラーにアドバイスを求めることも、スコアラーからアドバイスを受けることもできない。

(5) 計算にあたっての打数調整（ストローク・コントロール）

一般的なストローク競技において、各ホールの打数が各人のネットダブルボギーを越えている場合、そのホールの打数をネットダブルボギーと見なしてグロススコアを算出しハンディキャップ計算にあてる。

また、ステーブルフォード競技において、0ポイントのホールについては、ネットダブルボギーと見なしてグロススコアを算出しハンディキャップ計算にあてる。

(6) JBGA ハンディキャップの計算方法

下記スコアとそのゴルフ場のコースレートとの差をハンディキャップとする。

有効スコアカードの枚数	スコア
20枚の場合	ベスト10ラウンドの平均スコア
19枚又は18枚の場合	ベスト9ラウンドの平均スコア
17枚又は16枚の場合	ベスト8ラウンドの平均スコア
15枚又は14枚の場合	ベスト7ラウンドの平均スコア

13枚又は12枚の場合	ベスト6ラウンドの平均スコア
11枚又は10枚の場合	ベスト5ラウンドの平均スコア
9枚又は8枚の場合	ベスト4ラウンドの平均スコア
7枚又は6枚の場合	ベスト3ラウンドの平均スコア
5枚の場合	ベスト2ラウンドの平均スコア
4枚以下の場合	その中のベストスコア

計算結果については小数点以下第2位から切り捨てる。競技に適用する際は、小数点以下第1位で四捨五入した整数値を使用する。

コースレートの無いゴルフコースの場合は、そのコースのパーをコースレートとして計算する。

レディスティーでのコースレートが無い場合は、男性のコースレートと同一とする。

男女が同一のティーを使用してプレーする場合、女子にはコースレートの差に4打を加算してハンディキャップを計算する。

☆ハンディキャップ算出例

ある競技者がこの2年間に5試合分のスコアカードを提出し、そのスコアが100、104、105、110、111であり、104を出したコースのコースレートが69で、それ以外のコースのコースレートが72だった場合
→ 上記の表のとおり、5枚のスコアカードの場合は、そのうちベスト2枚を選びその平均で決定される

$$100 - 72 = 28 \quad \star$$

$$104 - 69 = 35$$

$$105 - 72 = 33 \quad \star$$

$$110 - 72 = 38$$

$$111 - 72 = 39$$

上記、5つの内、ベスト2枚は、☆印の28と33である。

$$(28+33) \div 2 = 30.5$$

したがって、

30.5がハンディキャップとなる。

競技に適用する場合は、これを四捨五入して整数値の31とする。

6 競技への参加資格

【世界選手権、海外開催のオープン競技、及び、ジャパンオープン】

JBGA会員の視覚障害者とし、カテゴリー(B1/B2/B3)の規定については、IBGAの基準に準拠する(3ページ、「2 ブラインドゴルファーの定義」参照)。

また、

1、IBGA指定の視力診断書の提出

*一度提出した視力診断書は、その後、視力の著しい変化等、カテゴリーが変わった場合に更新し、再提出しなければならない

2、IBGAが定めるハンディキャップ(スコアカード4枚以上)

3、過去2年間に提出されたスコアカードの枚数についての条件(世界選手権の場合スコアカード7枚以上)

以上の条件を満たすことを要する。

上記の条件を満たしていないブラインドゴルファーを対象とした、ローカルな特別枠を設けた試合を別に開催する場合がある。

【JBGA全国大会】

JBGAまたは協力団体の視覚障害者会員であれば、特に資格を必要としない
(但し、入賞資格はJBGA会員のみ)。

大会名称	参加資格
<ul style="list-style-type: none">・ 世界選手権・ 海外開催のオープン競技・ ジャパンオープン	<ul style="list-style-type: none">・ JBGA会員の視覚障害者(IBGA指定の視力診断書の提出を要する)
<ul style="list-style-type: none">・ JBGA全国大会	<ul style="list-style-type: none">・ JBGAまたは協力団体の会員(但し、入賞資格はJBGA会員のみ)

7 競技運営上の主なルール等

【ハンディキャップと入賞資格】

JBGAが認めるハンディキャップを使用する。ハンディキャップ計算の対象となるのは、大会の前月末より遡って過去2年間のスコアカードである。

(11ページ、「(4) 査定ラウンド」参照)

上記ハンディキャップを持たない参加者については、その性別・カテゴリー(B1、B2、B3)における上限値を仮ハンディキャップとして、チャレンジリーグにて競技に参加できるが、入賞資格は与えられない。

【ガイドについて】

〈ガイドの欠席による、代理ガイドの申請について〉

既に決まっていたガイドが、突発的・予測不可能な事態の発生（天災・事故・身内の不幸・急病など）により欠席となった場合、ブラインド選手のプレー機会確保の観点から、代理ガイドの申請ができる。

この場合、スコアラーの中に、ガイド有資格者がいれば、その方がガイドになって頂き、そのスコアラーの代わりをJBGA事務局員が務める。

スコアラーの中に、ガイド有資格者が存在せず、事務局（運営）に人的余裕がある場合には、JBGA事務局員がガイドに入ることができる。

その際には、大会開会式にて競技委員長から発表する。

スコアラーの中に、ガイド有資格者が存在せず、事務局（運営）にも人的余裕がない場合には、やむを得ず、そのブラインド選手は欠場となる。

プロゴルファーが、ガイドにつくことは認められる。

【マーカーとスコアラー】

マーカーは対象となる競技者の打数をカウントする。

マーカーになるのは、同伴競技者のガイド（同伴競技者が健常者の場合はその競技者）、またはスコアラーである。

スコアラーは、その競技会の競技委員長が指名し、競技委員を兼ねる。

マーカーは、スタート前に対象となる競技者のスコアカードにハンディキャップ等の必要事項が記入されているかどうか確認する。

ホールごとに、競技者・マーカー・スコアラー間で必ずスコア（罰打を含む）の確認をする。打数の見解が異なる場合は、最終的にはスコアラーが裁定する。

スコアラーが付かない競技の場合は、競技委員長に連絡して裁定を仰ぐ。
競技中、ブラインド選手が、スコアラーから技術的なアドバイスを受けた場合、
2打罰となる。

【盲導犬】
コースが認めた場合に限り、プレー中の盲導犬の同伴を認める。

【道具やクラブについて】

- ・ 距離測定器：

2016年1月1日より距離測定器の使用に関するルールが変更されました。これまで距離以外の条件を測定する機能が付随する機器については、たとえスイッチを切っていてもゴルフコースに持ち込むことができませんでしたが、この変更で、ローカルルールが許す限りにおいて、距離測定のみに使用することが可能となりました。他条件の測定に使用した場合、最初は2打罰、繰り返した場合は失格となります。

このルール緩和を受けてIBGAも、これまでレーザータイプの距離計は使用禁止でしたが、ローカルルールで許す限り、ガイドが使用する限りにおいて認めることになりました。レーザータイプは単眼鏡と間違えやすく、ブラインドゴルファーについてはこれまで通り、レーザータイプの測定器または単眼鏡の使用が発覚した場合は失格となります。

このルール変更により、プレーヤーもガイドもスマートフォンなどの機器を距離測定器として使用することが、ローカルルールの許す限りにおいて、可能となります。

距離測定器の使用についてはIBGAのルールに準拠するものとする。

ローカルルールで許される限りにおいて、

◎レーザータイプ： 距離測定に限り、ガイドのみ使用可。

プレーヤーが使用した場合は失格。

◎GPSタイプ(スマホなど)： 距離測定にのみプレーヤーもガイドも使用可。

他条件の測定に使用した場合、最初は2打罰、繰り返した場合、失格。

- ・ アイマスク：

IBGAの規定に従い、B1競技者は、アイマスク（フィルムを張ったサングラスタイル、ソフト安眠マスクタイプを含む）を着用して競技する。アイマスクは競技スタート時にスターターがその可否を確認する。

B1 の選手は、スタートから全ホールアウトまでの間、原則として、アイマスクを外してはならない。インターバルの移動中も、着用とするが、昼食時のクラブハウス内においては外してもよい。

- ・白杖、その他：

プレーの際、コース内に白杖を持ち込むことはできるが、これを使って方向などを指示したりすることは、ゴルフルール規則【14-3】違反となり、失格となる。

球を打つ方向の指示は、その試合で使用中のクラブのみ使用できる。

- ・グリップに竹ひごなどを入れて握る部分を分かり易くしたり、ヘッドに白いテープなどを貼ったりしてはならない。

【プレーに関して】

- ・日本ゴルフ協会発行の「ゴルフ規則」に従い、プレーはオールノータッチ、OKパット無しとする。

- ・男性のティーマークは、そのヤーデージが 6,000 ヤード程度（大抵は白マーク）、女性のティーマークは、そのヤーデージが 5,400 ヤード程度（大抵は赤マーク）になるものを使用する。

- ・70歳以上のチャレンジリーグの選手のみ、申込の際に申告がある場合に限り、自分の意思で「金マーク」の使用を選択することができる。但し、「金マーク」を使用したラウンドのスコアカードはハンディキャップ計算の対象にならないが、その大会の入賞資格はある（「金マーク」の有無や色については、ゴルフ場によって異なる場合がある）。

- ・原則として素振りは1回とする（JBGA競技規則）。

- ・アンプレイヤブルは、球がウォーターハザード内で無い限り、いつでも自分の判断で決めて1打罰をして救済を受けることができる。

- ・プレーを終えたばかりのホールのグリーン上やその近くでの練習ストロークは禁止とする（JBGA競技規則）。

- ・球のドロップは、プレーヤー自身がしなくてはならず、ガイドがしてはならない。プレーヤー以外の人が球をドロップしたり、他の方法でドロップされた場合は、その誤りを訂正すること。訂正しなかった時はプレーヤーは1打の罰

を受ける（規則 20-2a）。

- ・ プレースを要する球はプレーヤー本人がプレースしなければならない。
- ・ リプレースを要する球はプレーヤー本人、又はプレーヤーが認めた人（ガイド、キャディ等）がリプレースしなければならない。

※ プレースとは、

- 1、拾い上げた球を別の地点に置くこと。
- 2、別の球を初めの球があった地点に置くこと。

※ リプレースとは、拾い上げた球を、その球が元あった地点に戻すこと。

※ リプレースを要する球を拾い上げる時は、必ず球の位置をマークすること。

※ 規則に基づいて球を「拾い上げる時」は、プレーヤー又はプレーヤーが認めた人とする。
但し、違反があった場合は、罰はプレーヤー本人に課される（規則 20-1）。

- ・ 競技委員会（競技委員長）は、スロープレーに対して、前後の組の進行状況やその他の事情を考慮したうえで、規則 6-7 の違反に対する罰を次のように修正することができる。

- i : 警告、
- ii : 2打のペナルティ、
- iii : 失格、

- ・ その他、各競技ごとに競技委員会がローカルルールを制定し、適用する。

- ・ 競技者は、各ホールの終了ごとに同伴競技者もしくはそのガイドとスコアの確認をとるようにする。

【 アテスト、順位の決定 】

- ・ ラウンド終了後、競技者とそのガイド、同伴競技者とそのガイド、そしてスコアラーはスコアを最終的に確認する。

同伴競技者は、競技者のスコアカードに署名をする（この場合ガイドの代筆可）。競技者は同伴競技者がスコアカードに署名していることを確認の上、自分もスコアカードに署名し、速やかに競技委員会に提出する（この場合ブラインドゴルファー自身がサインをしなければならない）。

- ・ 順位の確定

同点（チャレンジリーグ）、同ネット・スコア（レギュラーリーグ）の者がい

る場合は、マッチングスコアカード方法で順位を決定するか、又は18番ホールからのカウントバック方式により決定する。

当日の成績発表をもって順位及びスコアの確定とする。以降の異議申し立ては認められない。

※マッチングスコアカードの方法は、ラウンド後半の9ホールズを比較して決定、それが同点の場合、さらにその後半6ホールズを比較し、さらに同点の場合はその後半3ホールズを比較する方法

8 JBGAポイントランキング制度

各選手の研鑽の指標とするため、ポイント制のランキングを作成、発表する。

ポイントの積算期間

毎年、1月1日より12月31日までの1年間の合計とする。

ポイントは繰り越さず、次年度は再び0ポイントからスタートする。

一年間の内に両リーグにまたがって所属した者のポイントランキングの点数は、合算せずに各リーグ別に点数を出す。

ポイントの種類

参加・入賞状況により、下記のポイントを付与する。

JBGA全国大会・海外大会	
参加	2
優勝	7
準優勝	5
第3位	3
第4位	2
第5位	1

ランキングの発表・表彰・特典

ランキングについては、2つのリーグ（P8「4 競技の形態とリーグ分けについて」参照）別に集計し、ホームページ等で掲示し、競技開催の度に隨時更新する。

年末に確定したランキングについては、各リーグの上位を表彰し、又、他団体主催プロアマ戦等の出場選手決定の際、これを考慮する。

ランキング上位者の特典については、理事・執行委員の協議によって別途定めるものとする。

9 ガイドの交通費援助

※JBGA公認競技である5つの全国大会については、以下のルールにしたがい、ガイドの交通費の援助を申請できる。

- 援助の対象となるのは、ブラインドゴルファーがJBGA会員である場合のガイドの交通費とする。
- 原則として、ブラインドゴルファーとガイドが同伴することを条件とする。
- ブラインドゴルファーとそのガイドは、同一または近隣の区域に住んでいることを前提とする。
ブラインドゴルファーとガイドの住所地が、非常に離れている場合は、原則として、援助の対象となるのは、ブラインドゴルファーの住所地とゴルフ場の間の区間、もしくは、ブラインドゴルファーとガイドが同伴して移動した区間の、どちらか費用の低いほうとする。
- 利用する交通機関（例えば、飛行機と新幹線）は、原則として、どちらか費用額の低いほうとし、そのルートについても、最短ないし、より費用の低いルートとする。
- タクシー及びグリーン指定席券は、援助の対象とならない。
- 障害者割引、そのたの割引が利用できる場合には、原則として、援助の金額は割引を適用した場合の金額とする。
- ガイドの交通費援助を希望する場合は、各大会にて定められる一定の期限内に、ブラインドゴルファー又はガイドより、事務局へ「事前申請書」を提出しなければならない。
- ガイドの交通費援助を受領する際には、特急券、乗車券、航空券、有料道路等の領収書を提出することとする。
但し、近距離の電車の切符、ETCなど、小額・定額の場合や領収書の取得が困難なものについてはこの限りでない。

※乗用車で来た場合の、ガソリン代の計算については、走行距離に、時価／10を乗じた数値をもって、援助の金額とします。

※ガソリン代、ETC高速料金等であって、客観的な領収書が存在しない場合や、所定の計算式をもって、その金額を決定する場合には、現金ではなく、商品券やクオカードにより支給させて頂きます。

10 エチケット、マナー その他

- 一般的なゴルフでのマナーは、勿論守って下さい。プレー中の飲酒、指定場所以外での喫煙は避けてください。
- 遅延プレーにならないように気を付けてください。1ハーフ2時間半が目安です。
- ブラインドゴルファーは、ボールを打つ前に「打ちます！」と宣言するようにして下さい。宣言することで、周りの人が静かにしてください、ガイドの危険防止につながります。又、スコアラーも、空振りかどうかの判定がしやすくなります。
- ガイドがクラブのセットをする際、グリーン面などに損傷を与えないように注意して下さい。特にグリーン上でしゃがんだり、ひざますいたりする場合には、靴やひざの跡が残らないように配慮しましょう。ソフトスパイクでもメタルスパイク同様にスパイクマークが残ることがありますので、ガイドの方にはスパイクレスシューズの使用をおすすめします。
- ホール周辺は大変デリケートにできており、損傷（靴跡が残ったり、縁が欠けたりなど）した場合、後続のプレーヤーに重大な影響を与える可能性がありますので、プレーヤー及びガイドは下記の点に注意してプレーして下さい。

※グリーン上で歩測する場合は、同伴競技者のパットの線やホールの周辺を傷めないように、ガイドのみが歩測するか、プレーヤーが歩測する場合はホールの周辺に近づきすぎないようガイドが付き添うようにする。

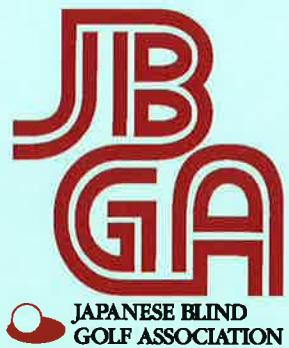
※ホール周辺に近づいてプレーの線を指示することは、ライの改善とみなされることもあるため、ホール周辺約30~40cm以内にはなるべく踏み込まないようにする。

※ホール内の球はなるべくガイドが拾うようにする。

2006年10月 1日 制定
2007年 4月 1日 改訂
2008年 1月 1日 改訂
2009年 1月 1日 改訂
2009年 8月 1日 改訂
2010年 1月 1日 改訂
2011年 3月 1日 改訂
2012年 5月 1日 改訂
2012年11月 1日 改訂
2013年 3月 1日 改訂
2014年 2月20日 改訂
2015年 2月 5日 改訂
2016年 4月1日 改訂

NPO 法人 日本ブラインドゴルフ振興協会(JBGA)

〒167-0053 東京都杉並区西荻南 2-18-9 菱研ビル 2F
TEL.03-3333-5481 FAX.03-3333-3402 e-mail info@jbga.org



特定非営利活動法人
日本ブラインドゴルフ振興協会(JBGA)

〒167-0053 東京都杉並区西荻南 2-18-9 菱研ビル 2F
TEL:03-3333-5481 FAX:03-3333-3402 e-mail:info@jbga.org
《2016年4月度版》